

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立古千谷小学校 校長 吉川 浩司

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調に、自他の生命を尊び、豊かな知性と感性を備えるとともに、国際感覚をもった心身ともにたくましい、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。

○よく考え がんばる子 ○ 明るく思いやりのある子 ○ 強い体で 元気な子

2 現状の学校図書館の課題

- ① 図書館の割り当て時間が週1回のため、学習に応じて使いたいときに使えないことがある。
- ② 昨年度に比べて貸出し冊数は増えているが、読みの深まりや広がりには欠ける。

3 今年度の学校図書館の目標

- ① 児童の読書に対する意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。
- ② 多様な資料から目的に応じた情報を選んで課題解決する能力を伸ばす。
- ③ 様々な取り組みを通して本の楽しさに触れ、日常的に本に親しむ態度を養う。
- ④ 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、児童の読書に対する意欲を高める。

4 今年度の重点取組

- ① 学校図書館を活用した読書活動や並行読書、調べ学習の充実を図りながら言語活動を充実させる。
- ② 朝読書の時間を設定し、日常的な読書の習慣化を図り、豊かな感性と言語能力を育てる。
- ③ 読書マラソンカードや読書カードを活用し、隙間時間や家庭での読書活動を推進する。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	①じどう車くらべ ②本でしらべてしょうかいしよう ③図書館たんていだん ④調べてわかったことを発表しよう
社会	④ごみのゆくえ ⑤新聞情報 ⑥区議会のはたらき
算数	②水とかさのたんい ⑥データを使って生活を見なおそう
理科	④月や星の見え方 ⑤台風と天気の変化
図工	①おはなしだいすき ③ことばから思いうかべて
保健体育	⑤体のせいけつとけんこう ⑥病気の予防
家庭科	⑤物を生かして住みやすく ⑥夏をすずしく、さわやかに

実践の評価

低学年は国語科、生活科を中心に、中・高学年は国語科、社会科、総合を中心に学校図書館を活用した。国語科物語文の単元で並行読書を進めたり、関連する本のブックトークを聞いたりすることは常時活動として定着してきた。また、調べ学習でポプラディアや図鑑の活用方法について低学年から取り組むことができた。今年度の傾向を踏まえ、活用が安定している3教科と総合についてはこのまま継続して進め、算数、図工、保健体育、家庭科については意識的に学校図書館と学校図書館司書の活用を計画に入れて次年度の実践に活かしていく。学習や行事等で学校図書館の利用が低い高学年については調べ学習や関連資料の提示としてパスファインダーを使うことで自主的な図書館利用を促す。

6 図書館運営計画
(1) 日常的な取り組み
①読書時間の確保(週2回の朝読書、15分×2回で毎週30分) ②図書館及び学校図書館司書の活用(週1回の図書館利用)
(2) 主な行事の取り組み
①読書月間年2回(6月・11月)②ブックメニュー
(3) 図書委員会などの取り組み
①読み聞かせ ②おすすめの本紹介 ③ポスター・ポップづくり ④ブッククイズ ⑤本の福袋
(4) 環境整備の取り組み
①請求記号を3桁に統一し、分類の理解を深める。(令和6年度は2・3類を予定) ②電算化更新等に適切に対応できるようにする。
(5) 司書・外部との連携
①展示や掲示を工夫し、図書館の環境づくりに心がける。 ②年度当初に教員向けの図書研修会を開き、図書館活用の年間予定を立て、授業担当者との共通理解を図る機会を確保し、資料の準備をより充実させる。
実践の評価
図書の時間、朝読書や隙間読書を続けて、「本を読みたい」「借りたい」と思う児童が増え、図書委員会や学校図書館司書が企画するイベントにも積極的に参加する児童が増えた。年2回の読書月間では、先生方のお薦めの本、ブックメニュー、ブッククイズ、給食時間の読み語りなど、学校全体で読書を楽しむことができた。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	図書館のしくみを理解し、図書館を使う授業により様々な分野の本や資料を手にする機会を増やす。	児童の年間平均貸出冊数：45冊	総貸出冊数 31774冊 児童1人あたり 64冊
②	自ら問いをもち、興味のある事柄について適切な本やICT・新聞など、複数の情報を選んで活用できる。	ICTと図書を併用した調べ学習を実施した回数：高学年10回・低学年5回	高学年：10回 低学年：5回
③	年間の学習指導内容に合わせ、学校図書館司書と連携した図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書資料を活用した教員の割合：70%	90%程度

8 学校図書館全体に関する自己評価
昨年度に比べ、年度当初から計画的に図書館活用を進めることができた。学習に合わせて学校図書館司書に本を集めてもらったり、地域図書館から団体貸出しを行ったりしてきたことで、調べ学習が円滑に進めることができた。また、その成果を学習発表会に繋げることもできた。4月に図書オリエンテーションを全クラスに行い、ルールや活用方法を示すことができた。各学級担任が年間計画の見直しを定期的にしてきたことで、学習の進捗状況に応じた支援が可能となった。足立区図書スーパーバイザーを活用した調べ学習やアニメーションを学校図書館で行ったことも子供たちの関心を高め、効果的だった。今年度の実践を年間計画にまとめ、次年度に活かしていく。

令和7年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立古千谷小学校 校長 吉川 浩司

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調に、自他の生命を尊び、豊かな知性と感性を備えるとともに、国際感覚をもった心身ともにたくましい、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。

○よく考え がんばる子 ○ 明るく思いやりのある子 ○ 強い体で 元気な子

2 現状の学校図書館の課題

- ① 図書館の割り当て時間が週1回のため、学習に応じて使いたいときに使えないことがある。
- ② 昨年度に比べて貸出し冊数は増えているが、読みの深まりや広がりには欠ける。

3 今年度の学校図書館の目標

- ① 児童の読書に対する意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。
- ② 多様な資料から目的に応じた情報を選んで課題解決する能力を伸ばす。
- ③ 様々な取り組みを通して本の楽しさに触れ、日常的に本に親しむ態度を養う。
- ④ 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、児童の読書に対する意欲を高める。

4 今年度の重点取組

- ① 学校図書館を活用した読書活動や並行読書、調べ学習の充実を図りながら言語活動を充実させる。
- ② 朝読書の時間を設定し、日常的な読書の習慣化を図り、豊かな感性と言語能力を育てる。
- ③ 読書マラソンカードや読書カードを活用し、隙間時間や家庭での読書活動を推進する。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	①じどう車くらべ ②本でしらべてしょうかいしよう ③図書館たんていだん ④調べてわかったことを発表しよう
社会	④ごみのゆくえ ⑤新聞情報 ⑥区議会のはたらき
算数	②水とかさのたんい ⑥データを使って生活を見なおそう
理科	④月や星の見え方 ⑤台風と天気の変化
図工	①おはなしだいすき ③ことばから思いうかべて
保健体育	⑤体のせいけつとけんこう ⑥病気の予防
家庭科	⑤物を生かして住みやすく ⑥夏をすずしく、さわやかに

実践の評価

6 図書館運営計画	
(1) 日常的な取り組み	
①読書時間の確保(週2回の朝読書、15分×2回で毎週30分) ②図書館及び学校図書館司書の活用(週1回の図書館利用)	
(2) 主な行事の取り組み	
①読書月間年2回(6月・11月) ②ブックメニュー	
(3) 図書委員会などの取り組み	
①読み聞かせ ②おすすめの本紹介 ③ポスター・ポップづくり ④ブッククイズ ⑤本の福袋・バレンタインブック	
(4) 環境整備の取り組み	
①電算化更新等に適切に対応できるようにする。 ②児童にとってよりよい読書空間づくりをするためにテーブルを使いやすいものにする。	
(5) 司書・外部との連携	
①展示や掲示を工夫し、図書館の環境づくりに心がける。 ②年度当初に教員向けの図書研修会を開き、図書館活用の年間予定を立て、授業担当者との 共通理解を図る機会を確保し、資料の準備をより充実させる。	
実践の評価	

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	図書館のしくみを理解し、図書館を使う授業により様々な分野の本や資料を手にする機会を増やす。	児童の年間平均貸出冊数：45冊	
②	自ら問いをもち、興味のある事柄について適切な本やICT・新聞など、複数の情報を選んで活用できる。	ICTと図書を併用した調べ学習を実施した回数：高学年10回・低学年5回	
③	年間の学習指導内容に合わせ、学校図書館司書と連携した図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書資料を活用した教員の割合：80%	

8 学校図書館全体に関する自己評価